

平成 30 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅢ講座・准教授
氏名 Name	西岡 美樹
専門分野 Academic Field	言語学・ヒンディー語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ヒンディー語と日本語の言語対照研究
<p>今年度は、前年度終了した科研課題「ウェブコーパスを利用したヒンディー語・日本語の複合動詞の対照研究」(課題番号：15K02517)の研究の一環として、前年度までに扱えなかった補助動詞群について、引き続きウェブコーパスを用いて研究を進めた。6月にコンスタンツ大学(ドイツ)で開催された The 34th South Asian Languages Analysis Roundtable (SALA-34)で、TAKEに当たる補助動詞について取り上げた"Tendency towards co-occurrence of negative sentences with lenaa TAKE as a V2: a corpus-based case study of Hindi"という題目でポスター発表をし、参加者から今後の研究の進め方に関わる貴重なコメントをいただいた。その後、補助動詞 PUT の振る舞いについて、ウェブコーパスを用いた同じ手法で分析を行った。その成果についても、次年度公表できるように準備を行った。</p> <p>その一方で、本ウェブコーパスをヒンディー語の言語研究、特に手付かずでいる語用論分野の研究に幅広く活用できるよう、新たなコーパス検索ツールの開発について、米国在住のインド系研究協力者らと議論を行った。その構想を受け、開発上での技術的な面についても、担当技術者と打ち合わせを行った。さらに、これに関連して、大阪大学データビリティフロンティア機構のシンポジウムに参加する機会を得、現代の様々なビッグデータの利用方法について知見を広めることができた。</p> <p>また、2015年度に終了した科研課題「ヒンディー語と日本語の属格後置詞および格助詞・準体助詞の対照研究」(課題番号：23652084)の研究の一環として、ヒンディー語の名詞修飾構造についても併せて研究を進めた。主に、日本語の格助詞・準体助詞「の」、内容補充に使用される「という」、連体修飾節に対し、ヒンディー語で使用される属格後置詞 'kā'、接辞 'valā'、関係詞節、分詞節、同格接続詞 'ki' の5つの名詞修飾の方策について、Shibatani (2018) の "Nominalization in crosslinguistic perspective" (In P. Pardeshi and T. Kageyama (eds.), <i>Handbook of Japanese Contrastive Linguistics</i>. Berlin: De Gruyter Mouton. 345-410) の体言化理論 (nominalization theory) を利用し、これら5つの方策の体系的な位置付けを行った。今回はヒンディー語母語話者の研究協力者らの大きな協力を得つつ、日本語と対照しながら Shibatani の理論に則り、その機能を吟味、分析した。同時に、国立国語研究所主催のプロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」に関する研究会や、大阪大学国際共同研究促進プログラム「準体法研究を中心とした機能文法理論の新展開」の合評会に参加し、世界のさまざまな言語の名詞修飾の方策について、さらなる知見を広めることができた。</p>	